

小学生向け

こちらの面は小学生向けの本を集めています。

どの絵本から読もうかな？

絵本

おならをならしたい
鈴木のりたけ 作
小学館

ぶた肉のおならはプー、ぎゅう肉はモー、でした。おならはつきみたいです。おならはかるとおもったらおならじゃありません。おならはいろんな音があるってびっくりしました。(糸島小2年)

ふまんがあります
ヨシタケシンスケ 作 PHP研究所

さいごのページの女の子がパパに「だいきなパパがフサフサでいられますように。」と言ったところが好きです。なぜなら、女の子が言ったことばで、パパがうれしそう、はずかしそうに真っ赤になったのでかわいいなあと思ったからです。(保田小2年)

わにわにのおおけが
小風さち文 山口マオ 絵
福音館書店

わたしは、わにわにがけがをしたところが好きです。どうしてかというハサミでゆびをきってしまっ、あわててすりとはうたいをまいておもしろいからです。(箕島小1年)

ぼくのかえりみち
ひがしちから 作・絵 BL出版

そらくんが白い線からおちないように、そろりそろりいき、最後に線がきていてそらくんが歩も動かなくなったところがびくとも動かなくておもしろくて大好きです。(港小3年)

うしはどこでも「モ〜！」
エレン・スラスキー・ワインスティーン 作
鈴木出版

イギリスのにわとりのなきごえがすきです。「カッカ ドゥドゥドゥー」というなきがたをかぞくにもおしえたいです。(港小1年)

ごきげんななめのてんとうむし
エリック・カール 作
もりひさし 訳 偕成社

てんとうむしとくじらのおはなしがすきです。りゅうは、わたしもくじらにのってみたいからです。(田鶴小1年)

てとてとてとて
浜田桂子 作・絵 福音館書店

あしをひらいてあたまのうでてをたたいえているところがおもしろいです。てとてとてとてとてとてとてとて、みんなと手をつなぐところがいいなと思いました。(宮原小1年)

あしたもともだち
内田麟太郎 作 降矢なな 絵 偕成社

オオカミが木のみきでたおれているくまを助けてかみぼうししているところがいいなと思いました。さいごは、くまのけがなおって「ありがとう」とちゃんとくまがおれいを言えたからお気に入りです。(箕島小3年)

おじさんのかさ
佐野洋子 作・絵 講談社

おじさんが黒いかさをこわしたくない(ぬらしたくない) 気もちでかさを守っているところが好きです。理由はよほどそのかさがお気に入りだから、こわしたりぬらしたりしたくないという気もちが分かるからです。お気に入りの言葉は「雨がふったらポンポロン、雨がふったらピッチャンチャン」のところです。(保田小3年)

こんぶのぶーさん
岡田よしとか 作
プロンズ新社

わたしがいいなと思ったところは、くしカツさんとコロケさんとアジフライさんとエビフライさんとイカリングさんが、野球のかっこうをしていたところです。りゅうは、まんざいのあいかたばしゅうなのに、なぜか野球のボールとバットとグローブをもっていたからです。(初島小2年)

ノンフィクション

あなたの声がききたい
聴覚障害の両親に育てられて
岸川悦子 文 佼成出版社

ぼくは「笑門には福来たる」というシーンが好きです。「どんなにつらいときも悲しいときも悔しいときもその心を笑顔でふきとばす」の意味がこのお話にとてもぴったりだったからです。(糸我小4年)

クレオパトラ
金治直美 文 佐々木メエ 絵 Gakken

この本をみなさんに読んでもらいたいと思った理由はクレオパトラがすくきれいな心の持ち主だと分かってもらいたいからです。自分なら自分のことで精一杯で他人たちのことなんて気にかけられませんが、自分の国だけではなくちがう国の人たちのことまで気にかけていてすごいなと思いました。(初島小4年)

昔話法廷
今井雅子 原作 NHK Eテレ「昔話法廷」制作編
金の星社

この本は昔話の登場人物が法律で裁かれるお話です。読んでいううちに、登場人物の気持ちによりそって考えられます。結局、最後まで判決は決まらないのですが、弁護人や検察、被告人の発言から、自分なりに考えて自分で判決を決められるところがこの本のよいところです。(宮原小6年)

十五少年漂流記
ジュール・ベルヌ 作 芦辺拓 編・訳 Gakken

十五人の少年たちが、せいかくもちがうけど、力を合わせて生きのびていくところが好きになった理由です。生きようとがんばっている気もちがとてんてんわってるところがこの本のみによくです。(糸我小3年)

よだかの星
宮沢賢治 作 講談社

みんなから嫌われていた「よだか」がみんなに見られるきらきらがやく星になったところは、読んで自分たちにも人として考えさせられる部分がかくされています。かくされているものをぜひ読んで探してみてください。(箕島小6年)

実際にあったお話

僕は上手にしゃべれない
椎野直弥 著 ポプラ社

主人公が「きつおん」という病気だけどもがばっているようなことをのりこえていくところが好きです。自信がなくてもがばっている主人公を見ると、自分もがばろうと勇気が出ます。(保田小5年)

命をつなげ！ドクターヘリ
岩貞みこ 著 講談社

ドクターやナースや救急隊の人達が心のバトンをつないで一人の患者さんを「絶対に助ける」という強い思いで、協力して命を助けるところがカッコイイです。(港小5年)

あにまる アニマル

ねこの手かします
〜たこやきやのまき〜
内田麟太郎 作 川端理絵 絵
文研出版

わたしは、ねこの手をかすところがおもしろいと思いました。なぜなら、手くびからうでをぬく、すごいねこだからです。(箕島小2年)

せかいいちのねこ
ヒグチユウコ 絵・文 白泉社

私がこの本の中で好きなのは、主人公のニャンコが自分がせかいいちのねこだと気づくところです。この本で私は自分がいることの大切さに気づきました。自信がない人におすすめの本です。(初島小6年)

ほらー ホラー

意味がわかると鳥肌が立つ話
蔵間サキ 編・著 Gakken

意味が分ると怖くなって鳥肌が立つ話です。私が一番おもしろいと思ったのは「天国でも一緒？」という話です。出版社の印刷ミスで右から読むお話を左から読んでいくという話です。おもしろくて怖いのでぜひ読んでみてください。(保田小6年)

しあわせの牛乳
佐藤慧 著 安田菜津紀 写真
ポプラ社

この本には、牛のことを第一に考える人「中洞正」さんが出てきます。この方は牛が大好きだからこそ、動物第一の牧場をつくりました。本来の牧場の在り方が分かる本です。また、現在とむかしの牛の育て方のちがいもよく分かります。(宮原小5年)

本屋さんのルビねこ
野中終 作 松本圭以子 絵 理論社

わたしは、この本の中の「ルビ」というネコが新しいことに挑戦するところが好きです。「自分は他のネコとはちがうんだ。」と思ってなかなかできなかったことを親友と共にやりとげていくからです。この本を読んだら自分も何かやってみたいと思えるようになります。(宮原小4年)

本当はこわい話
かくされた真実、君は気づける？
小林丸々 作 KADOKAWA/角川つばさ文庫

この本は「こわい話」と書いています。でも一部の人は「なんだ、こわくないじゃん」と思うかもしれません。でもこの本は、意味が分ると「わあ、こわい」と見えていた世界が「ガラッ」とかわる本なのです。(港小4年)

恐怖コレクター
巻ノ三 真夜中の笑い声
佐東みどり・鶴田法男 作 KADOKAWA/角川つばさ文庫

三つの町に住むすき間女。家の中にすき間があるとその女が出てきます。主人公の女の子はそれが怖くて自分の部屋の印刷ミスで右から読むお話を左から読んでいくという話です。おもしろくて怖いのでぜひ読んでみてください。(保田小6年)

動物たちが主人公

めいさく 伝記も あります

よもの読み物

こわい話が好きな人に

母さんがどんなに僕を嫌いでも
歌川たいじ 著 KADOKAWA/角川つばさ文庫

この本は、親から愛されなかった少年が苦難に負けず幸せをつかむまでの感動の実話です。読んでると悲しくなってきました。でも、くじけずにがんばる主人公「たいじ」さんを応援したくなります！(田鶴小5年)

源氏物語
紫式部 作 高木卓 訳 講談社 青い鳥文庫

私は、物語に出てくる短歌が好きです。そのときの人の生き方、考え方がよく分かります。主人公である光源氏はいろいろなことに苦しみ、楽しみながら生きていたことがよく分かる古典です。(糸我小5年)